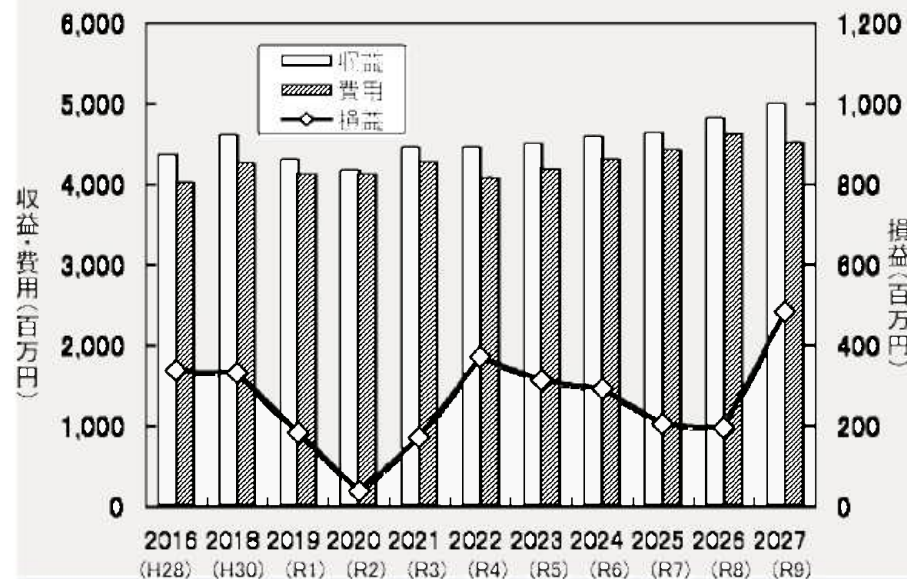


第6 財政収支計画（工業用水道事業）

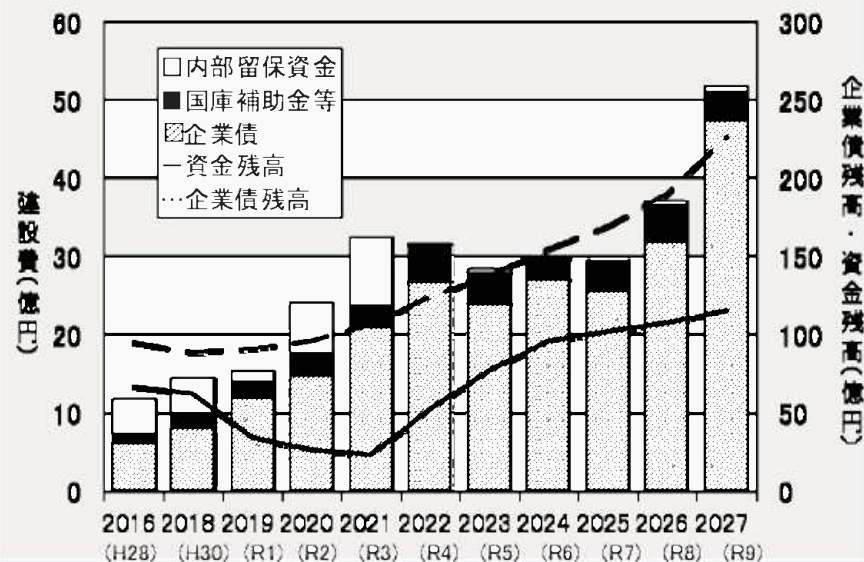
収益・費用・損益



- 収益
 - ・各年度の費用を賄うとともに、資金を確保するためR4以降の給水収益を増加
 - ・給水収益はR9には47億円が必要（H28比1.1倍）
- 費用
 - ・建設改良工事の増に伴い減価償却費が漸増
 - ・最大となるR8は46億円が必要（H28比1.2倍）
- 損益
 - ・各年度の損益は、0.3億円～8.6億円程度で推移

<特別利益は見込まない>

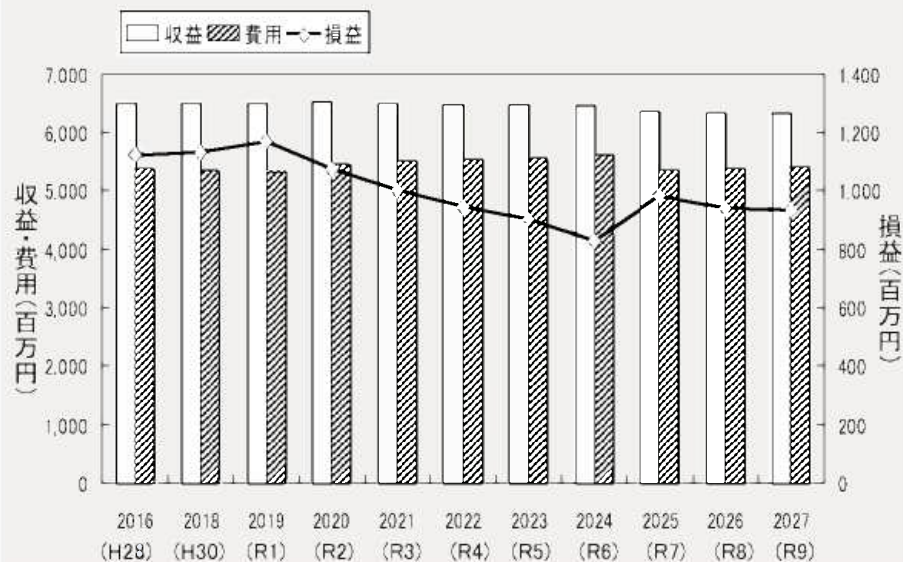
建設改良費と資金残高・企業債残高



- 施設の本格的な更新等
 - ・R4以降各工水で順次更新基準年を迎え、建設改良費が増加
 - ・R8以降ふじさん工水のポンプ場新設に伴い増加
- 内部留保資金の確保
 - ・更新財源として国庫補助金を最大限活用
 - ・補助対象外分は企業債の借入れなどにより対応（R3までは実績（見込）による資金充当）
 - ・企業債残高は増加

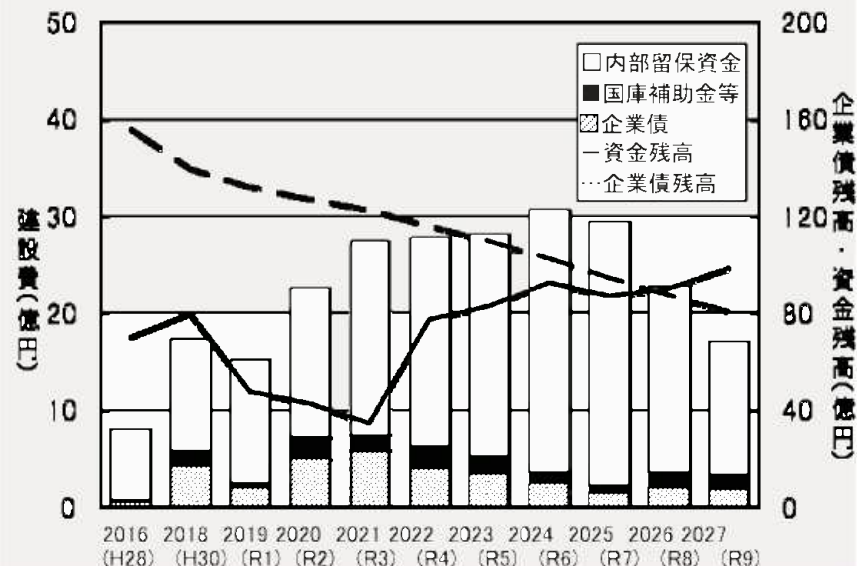
第6 財政収支計画（水道事業）

収益・費用・損益



- 収益
 - ・給水収益は漸減傾向にあるが、H28並を確保しR4以降も単年度黒字を維持
- 費用
 - ・最大となるR6は56億円が必要（H28比1.04倍）
- 損益
 - ・各年度の損益は、8億円～12億円程度で推移

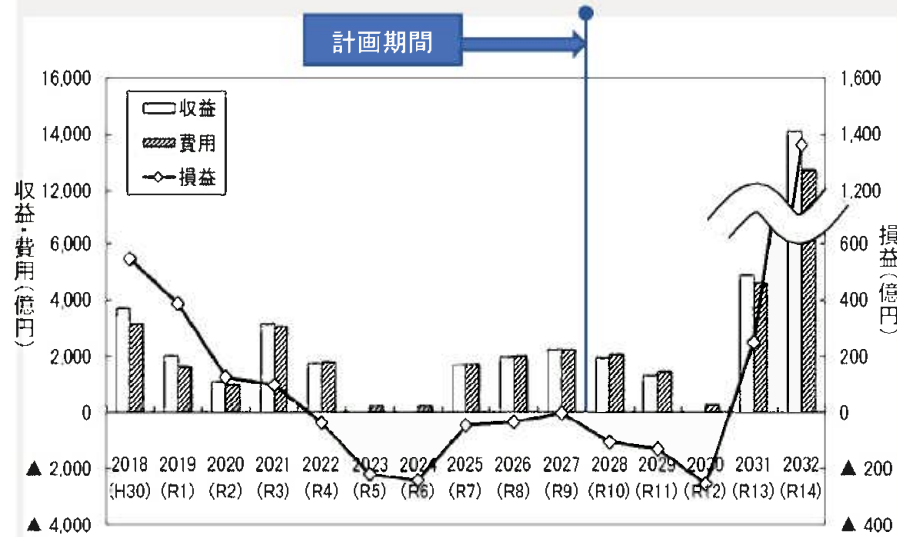
建設改良費と資金残高・企業債残高



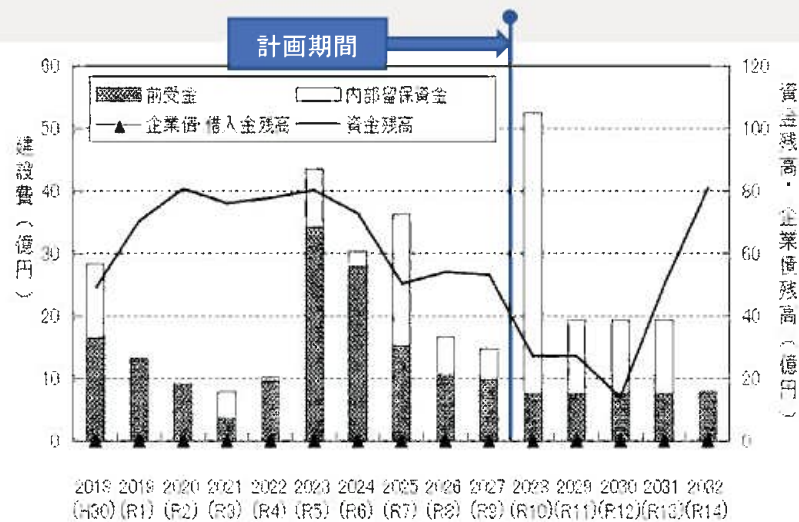
- 施設の更新等
 - ・R6～R7は遠州水道の中央監視設備更新により増
- 内部留保資金の確保
 - ・更新財源として内部留保資金を活用
 - ・一部を国庫補助金や企業債の借入で対応
 - ・企業債残高は減少

第6 財政収支計画（地域振興整備事業）

収益・費用・損益



建設改良費と資金残高・企業債残高



<2022(R4)~2032(R14)年度までの用地造成目標（完成ベース）>

年度	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
地区数	1	-	-	1	2	1	1	1	-	2	1
面積	5.7ha	-	-	5.5ha	8ha	7ha	10ha	18ha	-	28.4ha	31ha

○収支

- ・ 主な収益は完成した工業用地の引渡に伴う土地売却収益、費用は工業用地の売却に係る土地売却原価
- ・ 比較的小規模な工業用地の売却が続くR12までは赤字基調となるが、工業用地毎に収益を確保

○建設改良費・資金残高

- ・ 自己資金を活用したセミ・レディーメイド方式による造成工事に着手するためR5以降は資金残高が減少
- ・ R5、R10はそれぞれ2地区で用地買収を行うため建設改良費が増加
- ・ すべての工業用地の分譲が完了するR14には資金を回収

第7 計画の推進

- 進行管理
 - ・ 年度ごとに実績の評価・検証を適切に行い、必要に応じ計画の見直しを実施
- 計画推進方策
 - ・ ユーザー（企業、市町）、団体等との連携強化による事業推進
 - ・ 広報公聴活動の充実強化
 - ・ 庁内関係部局、国、関係団体に計画を周知し、支援・協力を要請
 - ・ 「創意工夫・コスト削減事例集」の活用により、すべての職員が経営革新に取り組むような好循環の実現
- 計画の検証と評価
 - ・ 「企業局経営戦略会議」において、各事業の実施状況、指標（数値目標等）の進捗状況を毎年度検証し、評価を実施
 - ・ 検証に当たっては、必要に応じ、担当者で構成するワーキンググループを開催
 - ・ 計画の進捗状況の評価結果を、外部有識者で構成する「企業局経営評価委員会」に報告
- 進捗状況の公表
 - ・ 計画の進捗状況を企業局ホームページ等で公表